

3年 個人と社会 (MYP 4 Individuals and Society) 【社会：4単位】

科目のねらい

すべての MYP 科目のねらいでは、教師が指導すべきこと、生徒が経験し学習すべきことを提示しています。また、これらのねらいには、学習体験によって生徒がどう変わり得るかが示されています。MYP の「個人と社会」のねらいは、生徒に以下のことを促して、習得させることです。

- 人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること
- 個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること
- 環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること
- 人間のコミュニティと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること
- 地域及びグローバルなコミュニティの責任ある市民としての行動すること

探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること

目標および評価規準 (Year 5)

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 文脈に合った広範囲の用語を使う。
	ii. 高度な記述や説明、または事例を通して、科目ごとの内容と概念についての知識と理解を示す。
B：調査探究	i. 明確かつ的の絞られた研究課題を設定し、その関連性を正当化する。
	ii. 研究課題を調査するための行動計画を策定し実践する。
	iii. 適切で多様、かつ関連性の高い情報を収集し記録するための研究方法を活用する。
	iv. 研究のプロセスと結果を評価する。
C：コミュニケーション	i. 受け手や目的にとって適切なスタイル（文体）を効果的に使用して、情報や考えを伝達する。
	ii. 特有的の形式にふさわしい方法で、情報や考えを構成する。
	iii. 広く認知された表現技法に則って、情報源を記録する。
D：批判的思考	i. 概念、問題点、モデル、視覚表現、理論について議論する。
	ii. 情報を統合して、有効かつ論拠のある主張を行う。
	iii. 幅広い情報源やデータを出典や目的という観点から分析・評価し、その価値や限界を考察する。
	iv. さまざまなものの見方とそこに含まれる意味を解釈する。

※ねらい・目標・評価規準の記述は、IBO 発行の「Individuals and Society guide」に基づいています。

関連概念（個人と社会の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

総合社会科（経済・地理・歴史に基づく）			
因果関係	選択	文化	公平
グローバル化	アイデンティティー	革新と革命	ものの見方
力・権力	過程	資源	持続可能性

政治学・公民・行政学			
権威	市民権	対立	協調
グローバル化	政府	イデオロギー	統合・同化
相互依存	リーダーシップ	力・権力	権利

地理			
因果関係	文化	格差と公平	多様性
グローバル化	管理と関与	ネットワーク	パターンとトレンド
力・権力	過程	規模	持続可能性

歴史			
因果関係	文明	対立	協調
文化	統治	アイデンティティー	イデオロギー
革新と革命	相互依存	ものの見方	重要性

年間計画

(学習指導要領観点①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度を示す)

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点(【 】内) および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. グローバルな関わり 2. 公平性と発展 3. メディアリテラシー	歴史的分野 C. 近現代の日本と世界 (1) 近代の日本と世界 (2) 現代の日本と世界 教材「映像の世紀」	「レポート」【A】【D】 近代後半の日本や世界の戦争の歴史を踏まえて、平和のために「わたし」ができることについての考えをメディアリテラシーの観点から示す。	1. 【A】-① 【D】-② 2. A-1
	2	1. システム(体系) 2. アイデンティティーと関係性 3. 創造的思考スキル	公民的分野 C. 私たちと政治 (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本原則 (2) 民主政治と政治参加	「調査計画書」「レポート」【B】【C】 日本国憲法や日本の政治の仕組みを踏まえ、より良い民主国家の在り方について考察するとともに、主権者として、「わたし」が政治にどのようにかかわっていけばよいか示す。	1. 【B】-② 【C】-③ 2. C-11
後期 (10月～3月)	3	1. 変化 2. 空間的・時間的位置付け 3. 情報リテラシースキル	公民的分野 B. 私たちと経済 (1) 市場の働きと経済 (2) 国民生活と政府の役割 教材「日経STOCKリーグ」 教材「私たちの暮らしと税」	「レポート」「プロセスジャーナル」 【B】【C】 経済活動における企業及び政府の役割を分析するとともに、「min-na」の幸福を持続させるための変化に対応するシステムについて、現在、そしてこれからの自らの在り方と関連させながら考察する。	1. 【B】-② 【C】-③ 2. C-12
	4	1. 時間・場所・空間 2. グローバル化と持続可能性 3. 批判的思考スキル	公民的分野 A. 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化 (2) 現代社会を捉える枠組み D. 私たちと国際社会の諸課題 (1) 世界平和と人類の福祉の増大 (2) よりよい社会を目指して	「小論文」【A】【D】 これまで3年間の学びの成果を生かし、国際社会における諸課題について、SDGsの視点から、「min-na」の幸福を持続させるために「わたし」のアイデアを論じる。	1. 【A】-① 【D】-② 2. C-18